

## 2023年度教育力研究開発機構事業計画中間報告

### 1. 大学教育の現状についての調査研究（ICT利活用に関する調査研究を含む）

2023年事業計画			進捗状況
(1) 本学における教育の現状についての調査研究	本学における学修に関するビッグデータの分析方法についての調査研究	企画課 IR グループと機構とで協同して教学 IR の推進を行う。	・BI ツール「IRQuA」の学内利活用推進のためのプレワークショップを企画課と協同で2023年8月8日に実施。
	本学における各種アンケートデータの分析・フィードバック方法についての調査研究	2022年度分の授業アンケートについて分析を行い、学内向け分析報告会の実施及びFD推進委員会へのフィードバックを行う。	・佐々木研究員が、2022年度学部授業アンケートについて分析を行いFD推進委員会(2023年6月21日)及び <a href="#">学内報告会(2023年7月27日)</a> にて報告を行った。
(2) 他の教育機関における大学教育の現状についての調査研究	他の教育機関での先行事例等の調査研究	学修成果を可視化する施策の一つとして、学生ポートフォリオやDPを指標とした達成度評価を導入している他大学の調査研究を行う。	・私大連を通じて、同規模私大ポートフォリオ導入校に活用に関するアンケート調査を実施中。
	他の教育機関との情報ネットワークの構築	全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)や高等教育に関する各種研究会・セミナー等に研究員が参加し、他機関の情報収集及びネットワーク構築を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月25日開催の東工大「情報活用IR研究会」に佐々木研究員が参加。</li> <li>・6月17日開催の<a href="#">2023年度全国私立大学FD連携フォーラムシンポジウム</a>に澁川研究員が登壇。</li> <li>・8月22日～23日開催の<a href="#">大学コンソーシアム八王子FD・SDフォーラム</a>に澁川研究員が登壇。</li> </ul>

## 2. 大学教育の新たな在り方についての調査研究（ICTの利活用に関する調査研究を含む）

2023年事業計画		進捗状況
（1）With コロナ/After コロナを見据えた柔軟な教育手法（オンデマンド教材を活用した反転授業等）の調査研究	学内におけるオンライン手法やデジタルツールを活用した授業に関する好事例を継続して収集し、Web 公開を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<a href="#">これからの授業デザイン・実践ハンドブック</a>」をもとにした、<a href="#">学内の好事例を紹介する Web サイト</a>を作成、新事例 2 件を含めて、4 月 17 日に公開。</li> <li>・2023 年度後期について、グッドプラクティスインタビュー2 件を予定</li> <li>・柔軟な教育手法（反転授業等）について、実施状況を検証するために、指標を策定した（※1）。</li> </ul>
（2）メディア授業告示対応のための調査研究		
（3）高等教育政策や国際的動向等に関する調査研究		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<a href="#">本学における『生成系 AI』についての基本的な考え方</a>」について、佐藤機構長が作成に寄与した。</li> <li>・高等教育質保証学会（2023 年 8 月 26 日・27 日開催、テーマ「データサイエンス・AI 時代の高等教育の質保証—データとの対話—」に、佐々木研究員、澁川研究員が参加した。</li> </ul>

3. 大学教育力向上に資する教育の技法及びシステムの開発（学修成果評価とそれに基づく学修者の学修サイクルの改善に資する技法及びシステムの開発を含む）

2023年事業計画	進捗状況	
<p>(1) 学修成果の把握・可視に係る技法の研究開発</p>	<p>文学部卒業論文用ルーブリックの活用、効果検証の支援を行う。</p>	<p>・澁川研究員が、文学部卒業研究用ルーブリック活用について継続して支援を行っている。</p>
	<p>「FLP を履修した学生の学修成果についての分析」について調査研究を進める。</p>	<p>・佐々木研究員が、「FLP を履修した学生の学修成果についての分析」について、分析資料を作成中。</p>
	<p>学生ポートフォリオによる学修データの把握・可視化について継続して調査研究を進める。 学修データの把握・可視化の方法としての、DP を指標とした達成度評価の手法について調査研究を進めるとともに、公開研究会を実施し議論を深める。</p>	<p>・他大学における学修データの把握・可視化方法等について調査研究中。</p>
	<p>学修成果の可視化の1ツールとしての「オープンバッジ」について、全学への広報と発行支援を行う。</p>	<p>・教育力研究開発機構の manaba コースにてオープンバッジ資料を公開するとともに、各組織における新規発行支援を行った。</p>
<p>(2) 学生ポートフォリオに関する調査研究及び開発</p>	<p>学生ポートフォリオシステムに係る実証実験結果レポートを作成し、学内にフィードバックを行う。 実証実験結果をもとに学生ポートフォリオの導入施策について、学部長会議へ提案を行う。大学としての導入が決定すれば、導入に向けた開発を推進する。</p>	<p>・実証実験結果をレポートとしてまとめ学内にフィードバックを行った。 ・学部長会議を通じて、ポートフォリオ導入について提案を行った結果、ポートフォリオ導入が決定した。</p>
<p>(3) データに基づく教育・授業改善手法に係る研究・支援（教学IR）</p>	<p>企画課 IR グループと機構とで協同して教学 IR の推進を行う。</p>	<p>・BI ツール「IRQuA」の学内利活用推進のためのプレワークショップを企画課と協同で2023年8月8日に実施。</p>

#### 4. 前三号の活動を基礎とする本大学の教育の改善に関する提案及び本大学の教員が行う教育活動への支援

2023年事業計画		進捗状況
(1) 授業全般における効果的な教育手法に関する教職員向けコンサルティングと解決支援	教員の授業運営における教育手法や教育技法に係る課題解決支援方法について具体的に検討に着手する。	
	映像言語メディアラボと共同して語学教育に関わる教育手法の調査やFD研修を行う。	・「 <a href="#">グッドプラクティス</a> 」について、2023年度後期にインタビューを行う授業を語学授業とし、語学教育における教育手法の好事例を収集し、学内外に共有する予定。
(2) 遠隔授業における技術的諸課題に関する教職員向けコンサルティングと解決支援	遠隔授業ポータルについてさらなる充実とワンストップ化の在り方を継続して情報環境整備センターと検討。	
	2022年度に作成、Web公開した「これからの授業デザイン・実践ハンドブック～デジタル技術活用のヒント～」の内容（特に好事例）について、効果的な情報公開、情報共有方法を検討し整備する。	・ <a href="#">第26回FD・SD講演会</a> にて、ハンドブックおよび掲載されているグッドプラクティス事例の紹介を澁川研究員が講師として行った。
(3) 授業における知的財産権等に関する教職員向けコンサルティングと解決支援	授業に関する著作権の理解をより深めるために、実際の事例をわかりやすく解説した「著作権ガイドブック（事例編）」をまとめる。	・2023年度前期の教職員からの問い合わせは全26件（8月1日時点）。

## 5. 大学教育に関する研修

2023年事業計画		進捗状況
(1) 教育力向上に資する研修用コンテンツの開発と提供		
(2) 教育力向上に資する各種講演会・研修会等の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内向けには、新任専任研修会への講師派遣や授業アンケート分析報告会、著作権講習会を実施する。学修データの把握</li> <li>・可視化の方法に関して、調査研究を踏まえた公開研究会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="#">第24回FD・SD講演会「ChatGPTが促すAI時代の教育革命」</a> (2023年5月20日開催、佐藤機構長パネラー)</li> <li>・ <a href="#">2023年度全国私立大学FD連携フォーラムシンポジウム</a> (2023年6月17日開催、澁川研究員講師)</li> <li>・ <a href="#">一般社団法人オープンバッジ・ネットワーク主催オープンバッジ事例セミナー</a> (2023年6月22日開催、谷教務総合事務室長講師)</li> <li>・ <a href="#">2022年度授業アンケート分析結果報告会</a> (2023年7月27日開催、佐々木研究員講師) 90名参加</li> <li>・ <a href="#">新任専任教員研修会「FDワークショップ」</a> (2023年9月7日開催、澁川研究員講師)</li> </ul>

## 6. 本大学における教育力向上に資する活動に関する連絡調整

2023年事業計画		進捗状況
(1) 授業に関する各種技術的サポート等についてワンストップサービスの在り方の検討	法学部事務室、情報環境整備センターと協力して、2023年4月から茗荷谷キャンパスで実施される授業で生じるニーズについて実態を把握し、対策を検討する。また、対策が全学展開できるかを検討する。	
	映像言語メディアラボで提供しているクラウド型 CALL システムの有効活用を検討する。	
(2) 各種授業支援に関する「よろず相談窓口」の開設	各種研修会やワークショップの実施を通じて、学内教職員の日常の悩みや不安を把握し、よろず相談窓口の開設について具体的に検討に着手する。	

その他本大学における教育力向上に資する活動

2023年事業計画		進捗状況
(1) SARTRAS (授業目的公衆送信補償金等管理協会) への申請及び利用報告への対応支援	SARTRAS の利用報告及び補償金分配への対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度分の SARTRAS への申請・登録作業実施。</li> <li>・利用報告への対応 (指定: 7月/理工学部)</li> </ul>
	各組織における著作物の管理について、SARTRAS 補償金分配に適切に対応できるような支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各組織の著作権管理について、規程整備について支援を行った (13件)。</li> </ul>
(2) 教育力研究開発機構研究レポート (仮称) の発行 (Web 媒体・コンテンツの蓄積)	教育力研究開発機構の manaba コースを開設し、機構における調査研究結果等を蓄積・公開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に教育力研究開発機構の manaba コースを開設、ディスカッション・ペーパーや授業アンケート分析結果等、機構のコンテンツを公開した。</li> </ul>
(3) ディスカッション・ペーパーの発行	2023年度の研究成果について、2つ以上のディスカッション・ペーパーを発行する。	

## ※1 DXによる効果的で質の高い学修の実現に向けた指標

教育力研究開発機構

### アウトプット

1. 教育に係るDXに関して、異なるテーマの講演会を**毎年**実施し、公開する。
2. 本学の教員を対象に、DXによる授業設計や授業運営（反転授業やICTツールの活用）等を支援する研修を**毎年**実施する。
3. 教育力研究開発機構のWebサイトにて、DXによる授業実践事例、ならびにICTを活用した授業実践の解説記事などを公開し、情報を広く提供する。また、情報は定期的に追加ならびに更新を行う。
4. ICTを活用した科目について、**50%以上の実施を目指す**（対象：学士課程の授業）。

### アウトカム

1. 授業形式（対面授業、ブレンド型授業、オンデマンド授業、双方向型オンライン授業、反転授業）と、学生の授業への満足度や成長実感、GPAの関係を分析する。授業形式ごとに、授業外学習時間、成長実感、授業への満足度に対する授業アンケートの回答平均値、ならびにGPAを**前年度比+3%**あげることを目指す。

#### <評価項目>

授業外学習時間（授業アンケート設問10）

成長実感（授業アンケート設問3・4）

GPA

授業への満足度（授業アンケート設問11）

#### <方法>

オンデマンド／双方向型オンライン授業の別については、シラバスの「授業形式」から判断  
対面授業は、授業アンケート設問14で「すべて対面」を選択した授業とする。

厳密には授業ごとではなく学生ごとによって異なるが、学生から見て（＝学生主体で）対面か非対面かが分かれば良い。

#### <分析>

授業形式ごとに、授業外学習時間、成長実感、GPA、授業への満足度の**前年度比**を分析する。

学部ごとに上記分析結果を出し、**授業形態と科目の親和性**を考察する。

※授業アンケートとは学士課程における授業アンケートを指す（設問番号は2023年度実施のもの）

以上